

平成26年 8 月 7 日

平成26年

第 8 回教育委員会定例会会議録

大田区役所 第五・六委員会室

平成26年第8回教育委員会定例会会議録

平成26年8月7日午後2時大田区教育委員会定例会を開催した。

1 出席委員

| | | |
|------|----|----------|
| 鈴木清子 | 委員 | 委員長 |
| 尾形威 | 委員 | 委員長職務代理者 |
| 芳賀淳 | 委員 | |
| 横川敏男 | 委員 | |
| 藤崎雄三 | 委員 | |
| 津村正純 | 委員 | 教育長 |

計 6 名

2 出席した職員

| | |
|--------------------|-------|
| 教育総務部長 | 勢古勝紀 |
| 教育地域力・スポーツ推進担当部長 | 赤松郁夫 |
| 教育総務課長 | 青木重樹 |
| 副参事（教育施設担当） | 下遠野茂 |
| 学務課長 | 水井靖 |
| 指導課長（幼児教育センター所長兼務） | 菅野哲郎 |
| 副参事 | 長塚琢磨 |
| 学校職員担当課長 | 室内正男 |
| 教育センター所長 | 岩田美恵子 |
| 社会教育課長 | 星光吉 |
| 大田図書館長 | 北村操 |

計 11 名

3 教科用図書採択の審議に出席した関係職員

| | |
|----------------|--------|
| 指導課 統括指導主事 | 大川 優 |
| 指導課 統括指導主事 | 田井 俊行 |
| 指導課 統括指導主事 | 岩崎 政弘 |
| 指導課 指導主事 | 小林 繁 |
| 指導課 指導主事 | 山本 浩司 |
| 指導課 指導主事 | 木下 健太郎 |
| 指導課 指導主事 | 東口 孝正 |
| 指導課 指導主事 | 古川 大輔 |
| 指導課 指導主事 | 志賀 克哉 |
| 指導課 管理係長 | 佐藤 裕樹 |
| 指導課 管理係 主任主事 | 唐澤 毅 |
| 指導課 管理係 主事 | 神津 智哉 |
| 教育総務課 庶務係 主任主事 | 卯木 一嘉 |
| 教育総務課 庶務係 主事 | 平松 翔太郎 |

計 14 名

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第13条及び大田区教育委員会会議規則第3条により、第8回大田区教育委員会定例会を招集した者は、次のとおりである。

委員長 鈴木清子

○委員長

ただいまから、平成26年第8回教育委員会定例会を開催する。本日は、小学校教科用図書採択の審議を行うため、大田区教育委員会会議規則第14条により、関係職員等の出席も求めている。

これより審議に入る。本日の出席委員数は定足数を満たしているので、会議は成立する。

なお、本日は定員を超える傍聴希望者が見込まれる。これは教科書採択への区民の関心が高まっているためだと思われる。私としては区民の関心に応え、公平・公正な開かれた教科書採択を行うために、大田区教育委員会傍聴規則第5条ただし書きにより、本日の定例会における傍聴人の定員を50名に増員し、傍聴を許可したいと考えるが、いかがか。

(「異議なし」の声あり)

○委員長

傍聴を許可する。

(傍聴希望者入室)

○委員長

大田区教育委員会傍聴規則第7条により、議場における言論に対して批評を加え、又は拍手その他の方法により公然と可否を表明することは禁止されている。協力をお願いする。

次に、会議録署名委員に藤崎委員を指名する。

日程第1は教育長の報告事項についてであるが、特段の報告事項はない。

日程第2 平成27年度使用大田区立小学校教科用図書採択について

○委員長

それでは、平成27年度使用大田区立小学校教科用図書採択の審議を行う。

前回、第7回定例会にて、江森 利公 教科用図書調査委員会委員長から報告書の説明を受けた。各委員には教科用図書を読んでいただくとともに、報告書及び区民・学校意見を参考に真摯に調査研究を進めていただいたと思う。

今回の教科用図書採択の審議対象は9教科11種目のため、本日と明日(8月8日)に分けて審議を行う。本日は国語、書写、社会、地図、算数の5種目について審議を行いたいと考える。また審議が長引くようであれば、幾つかの種目を明日審議したいと思うがいかがか。

(「異議なし」の声あり)

○委員長

では、種目ごとに審議を行う。

はじめに国語について審議する。国語の発行社は5社である。各委員の意見をお願いする。

○藤崎委員

どの教科書もしっかりとよくできていると思う。私はあくまでも、国語としてというよりは、大田区の小学生がどの観点において強みを発揮し、ないしはもう少し改善が求められるのかという観点から見た。大田区の場合は、学習効果測定等から考えても、構成や段落のつながり、理解、書くことといった点において、もう少し力をつけてほしいという実態がある。そうした実態に鑑み、私としては、各単元の説明文の後にそれについて自分の考えをまとめたり、読み物の流れを通じてそれに対する自分の考えを取りまとめる構成をとっていたH社が、他社と比較したときに大田区の子どもたちに合っているかなという観点があり、H社を薦めたいと思う。

○教育長

私もH社を推薦したいと思う。経過と理由であるが、国語の教科書選定にあたっては、教科書に掲載される小説や随筆などの題材が重要であると考え、まずその点から比較検討した。その結果、A社やF社においては子どもの生き方に参考になりそうな作品を比較的多く採用したり、若手の作品を採用するなど工夫の跡がうかがえた。また掲載されている作品以外にも、各社とも討論会やパネルディスカッション、レポートの作成など、読む、書く、聞く、話すなどの言語能力を高めるための努力をしているところである。したがってどの教科書を選ぶか難しいところではあったのだが、H社が適当と判断した。

○芳賀委員

国語は迷った科目の一つであるが、結論としては、私はH社がよいと思う。理由はほとんど藤崎委員と同じである。例えば、説明的な文章の後でそれに関連した形で書くことにつながっているというあたりの、そういうつながり具合が確かに他と比べるとあり、その流れがよいと思った。ただ正直、他の教科書も非常に充実しているものばかりであり、実際に研究を始めると思わず読み耽ってしまうことがしばしば繰り返されたということがある。それぞれ大変充実していたと思う。

○横川委員

私はH社とA社で非常に迷ったが、結論から言うとH社を推薦する。幾つかの理由については藤崎委員、教育長、芳賀委員が発言したことであるのだが、もう一つ、中学校へどうやったら橋渡しができるのかといったところでH社とA社でかなり迷ったのだが、総合的に見てH社が一日の長があるのかなと思い、H社を推薦する。

○尾形委員

私はH社を推薦する。理由は、第一に単元の流れがよくわかる。そして、身につけたい力がわかる。そういう工夫がなされている。単元の最初に目標と学習内容が提示されている。そしてその後に「手引き」、それと「たいせつ」、こういうもので着実に学習を身につけられる構成になっている。それから第二に、2年以上の上巻の終末に、語彙を豊かにする「言葉の宝箱」が設定されている。これは語彙を広げる工夫だけでなく、言葉の力をつけると共に書くことの活動にも有効に使えるのではないかと考える。第三に、3年以上

の説明的な文章の展開で、説明文と事後の書くという活動がつながっていること。そこで読解力と表現力を共に向上させようというねらいがあると考ええる。大田区の学習効果測定の結果から見ても、課題克服の指導に役立つ配列になっていると思う。また、児童の発達段階に即した魅力的な読み物が多く配置されていることもありH社を推薦する。

○委員長

私も結論から言うと、全委員と同じくH社を推薦したい。理由は各委員が述べたことに重複するが、教育長の発言の中に、資料としての題材について非常に素晴らしい文章が載っているとあった。そこを含め、芳賀委員からは、充実している、何でも読んでしまいそうだという発言があったが、私もその内容について非常に感銘を受けた。またそうした中の一つではあるが、4年の108ページに「だれもが関わり合えるように」というものがある。これは点字を題材にした資料であるが、「手と心で読む」とある。このページにはしっかりと、自分とは違った方たちとの関わり合いや優しい気持ちがあふれており、障害を持たれる方たちとのつながりであるとか、いろいろなところへの配慮が含まれていると感じた。重複するほかの委員の意見と共に、これを見たときに非常に感銘を受けた。よって、私はH社を推薦する。

審議の結果、H社を評価する意見で一致した。国語はH社でよいか。

(「異議なし」との声あり)

○委員長

国語はH社とする。

続いて書写について審議する。書写の発行社は6社である。各委員の意見をお願いします。

○教育長

私はH社を推薦したいと思う。理由は、紙面構成において朱色を効果的に活用するなど、わかりやすいこと。それから書く姿勢に「ぺったん」「ぴん」「ぐう」、毛筆の筆使いに「トン」「スー」「トン」を表記するなど、児童に覚えやすい工夫が施されていること。また字の形を真四角、横長、縦長の枠で示すなど、字の学習の手助けとなるような細かい配慮がなされていることである。

○横川委員

私はH社を推薦する。特に、1年の鉛筆の持ち方については各社とももちろん非常に丁寧に図解あるいは写真を入れているのであるが、H社は特に分解というか、段階を図示したような書き方で、口ではうまく説明ができないのであるが、子どもたちにとって見てわかりやすいのではないかと思う。四つか五つの図解で表示されており、これが鉛筆の持ち方の最初であるから大事なのではないかと思った。よって、私はH社を推薦する。

○芳賀委員

私もH社がよいと思う。教育長の発言にあったとおり、毛筆が「トン」「スー」「トン」というイメージしやすい擬音で表現されている。これについては、私の経験から言っ

ても、こういうものがあつたほうがその年齢では書きやすいのではないか、また指導にも向いているのではないかと思った。もう一つは、硬筆での原稿用紙の使い方についてであるのだが、これは実はかなり難しいものであり、大人になつてもなかなかきちんと書ける方はいないのであるが、3年生で原稿用紙の使い方を取り上げるのである。これについてきちんと書いてあるのが、私の見たところでは6冊のうち3冊であつた。そのうち、中でもH社の説明が朱書きを多用して非常にわかりやすく、どこに注意すればよいのかがわかるので、これはよいと思った。したがって、H社がよいと思う。

○藤崎委員

私は、まず書く姿勢、それから鉛筆ないしは筆の持ち方、またその後片づけ、そしていろいろなところへの活用という観点で検討した。その観点からE社、H社、K社の3社を抽出し、最終的にその3社を比較した。特に小学校の低学年で初めて文字に触れる、早い子は幼稚園から始めているが、そのスタートラインとして見た。先ほどの意見にもあつた姿勢の合言葉や擬音については、3社とも合言葉が出ている。1社は合言葉を文章で書いてある。もう1社も文章。あとの1社だけが文章ではなく単語を別々に書いているのであるが、それに加えて赤字でも書いてあり、文字が飛び込んでくるような工夫がされている。それから文字を書くにあたって、指でなぞるところから入るのか、鉛筆でいきなり書くところから入るのかといったところも、各社によって工夫が見られた。その中で、絵で指なのか鉛筆なのかははっきり示していたのはH社、同じ表記と矢印だけで示していたのはE社、文字だけで示していたのはK社であつた。初めて文字を本格的に書くという観点と、毛筆の片づけについて割としっかりと割いていたという観点から、最終的に私もH社を薦めたいと思う。

○尾形委員

私はH社を推薦する。理由は第一に、入門期や毛筆を使用し始める時期に姿勢や用具の取り扱い方がわかりやすく提示されていること。第二に、毛筆の運び方では、先ほどほかの委員の意見にもあつたけれども、「トン」「スー」「トン」などのイメージしやすい擬音で表されており、初めて毛筆を行う3年の児童にはわかりやすいということ。よって、H社を推薦する。

○委員長

着眼点については、全員同様のようである。まずは姿勢、鉛筆の持ち方、それから筆運びへという基本的な流れがとても大切であるということである。もう一つ、私は書で、筆で墨を使って表現することは、たくさん書くことによって身につけてくると思っている。このことについては集中力が養われるから、しっかりと集中して筆先へ目を留めて無心で書くという部分においては、集中力に対しとてもよいのかなと思う。それと基本的な姿勢であるが、これは将来身につくようなものであるから、とても大事なことである。学ぶということについては、先ほどの意見のように、擬音であらわしているという部分についてはリズムに乗った言葉というのは非常に覚えやすい。学習の中では、リズムにして歌で覚えていくというような方法をとることもあるわけだから、非常にその部分がわかりやす

くてよいと思う。H社では最後に「できたかな」の振り返りがある。また、書くときの姿勢や筆記用具の持ち方について他社よりページを割いて掲載されている。鉛筆のほか通常生活の中でのお箸の持ち方などは大きくなっても変わらない方がいるが、基本的なものについては小学生のうちにしっかり身につけることが大切である。以上により、私もH社を推薦する。

審議の結果、H社を評価する意見で一致した。書写はH社でよいか。
(「異議なし」との声あり)

○委員長

書写はH社とする。

続いて社会について審議する。社会の発行社は4社である。各委員の意見を願います。

○教育長

私はA社を推薦したいと思う。主な理由としては、まず大田区を代表する町工場に触れているのはA社とF社であるが、A社は「オンリーワン」や「仲間まわし」などの大田区の町工場を象徴するキーワードが書かれており、その特徴を端的に理解しやすいものになっている。また二点目は、縄文と弥生の集落の比較図や平氏と源氏の記述、江戸幕府の機構図など、歴史の記述が充実している点である。三点目は、6年の下巻に「わたしたちの生活と政治」の「いかす」のコーナーで、「公園づくりについて話し合おう」という課題を設け、今日的なテーマである住民参加のまちづくりを大きく取り上げていること。住民の主体的な参画について子どもたちにも理解させ経験を積ませる必要があると考え、この点はA社の大きな特徴と理解した。四点目は、同じく6年の下巻の「世界の中の日本」の中の「アメリカと日本」のコーナーで、アメリカの学校や学生生活が紹介されており、本区においては中学校2年でセーラム市に代表が派遣されていることから、その派遣事業とのつながりという点からも、これは意義があると理解した。

○芳賀委員

私もA社がよいと思う。理由は、一つの見方として、学習効果測定の大田区の児童の成績を見ると、社会的事象への関心・意欲・態度、あるいは社会的事象についての知識・理解という数字が目標値に達していないという点があるということで、まずとりあえず社会的事象について関心を高める、あるいは関心を高めるきっかけとなるような教科書、その材料になるものがよいと思った。具体的に何で見るかということ、やはりこれは、現在我々がいるのは東京であり、やはりとりあえず東日本大震災の記述についてという観点で比較するのがよいだろうと思った。4種類の教科書全てに5年の後半で自然災害についての記述がある。ただし、A社はそれ以外にも選択という形であるが、6年の下巻にも「震災復興の願いを実現する政治」ということで、震災後の過程についても詳しく記述されている。もちろんF社も選択で釜石の例を挙げているし、K社もやはり選択で北茨城の例を挙げている。ただその中でも、量的にA社が一番多いということと、例えばほかの教科書では比較的地方自治体あるいは国がどういう対応をしたのかという観点の記述が多くを占めているわけであるけれども、A社においては、ボランティアの動きがどうであった、ある

いは原子力発電所がどうであったというような、多面的に学ぶきっかけづくりをしている。こうした点でも、これからまだまだニュースなどで続く問題などを考えるにあたり、よいきっかけになるだろうと思った。

もう一つ社会的事象に関するものとして、切り口としては裁判の記述ということでも考え、比較をした。最近、弁護士や検察官を主人公にしたドラマも多く、人気俳優も出ている。社会に関心を持つ意味でも、小学校高学年、中学生ぐらいから触れるのはとてもよいことだと思う。しかし、中学校3年で公民として習う司法があり、その前には裁判に関する教育は小学校6年時に一度学習するだけなのだが、どの教科書もページ数の制約なのであろうが、若干記述が物足りなかったのが残念であった。一つシンボリックなことを言うと、いわゆる三審制、つまり三回裁判をするという三審制については刑事と民事によって流れが違ったりするので、一つの図で説明するのはなかなか難しいところである。しかし、4種類の教科書の中には、地方裁判所から始まる裁判がないと誤解されるような図、要するに全て簡易裁判所から地方裁判所に行くように思われてしまうような図があったりして、これはできたら修正いただきたいと思った次第である。

相対的に見てA社が一番分量が多く冤罪や再審など様々な観点から視点も示されており、一番よいと思った。三審制の図に細かい表記がないのだが、相対的には一番よかったということもあり、社会的事象についての関心・意欲・態度などを促す意味の教科書として、私はA社が一番よいと思った。

○横川委員

私はA社を推薦する。社会であるから、今芳賀委員の発言にもあったように、情報を取り入れる、勉強するということが大事だと思うので、非常に教えやすい教科書、また逆に子どもが教えられやすいというつかみやすい教科書、特に物の考え方という観点からつかんでいくのにはA社がよいのではないかと思った。A社では、学習の進め方の中で、まず問題点をつかむ、そしてそれについて調べる、そしてまとめる、そしてそれをまた生かすというような形でポイントが絞りがよくなっていることがある。それから、先ほど意見があったように、大田区の事例が多く取り上げられているということは子どもたちの関心を持たせる意味でも大変大事なことではないかと思う。ということで、総合的に見て私はA社を推薦する。

○藤崎委員

本質からは外れた主観ではあるのだが、4社の教科書全てにおいて、ほかの教科と比べて感じたことかもしれないのだが、やけに登場人物が多いと感じた。漫画であるとか挿絵などで、各社とも4人から5人登場させていて、彼らのつぶやきがあるとか、彼らが問題提起をするという進め方になっているのが、なぜなのかと思いつつ見ていた。なぜこのように、主役である教師と子どもの間につぶやきを出してくる漫画のキャラクターであるとかそういうのが入ってくるのかというのが、非常に疑問に思った点である。

次に中身に関してであるが、社会について私が一番気になっていた点は、芳賀委員の発言にもあったが、学習効果測定における社会的事象についての関心・意欲・態度がなかなかほかと比べると上がっていないということであった。例えば、大田区の記事や内容が取

り上げられているということについては今までも重視してきたのであるが、それでもなおかつ関心が上がっていないという結果になるのかというのが、今回私の中では問題提起になっていた。私は、児童にどのようにして興味・関心を持ってもらうのかということを考え、最終的にはA社とH社を比較した。なぜこのA社とH社の2社を選んだのかというと、問題解決の過程においてA社では「つかむ」「調べる」「まとめる」「いかす」という段階を踏んでいっている。H社では「ホップ」「ステップ」「ジャンプ」、別の言葉では「見つける」「調べる・話し合う」「まとめる・広げる」とある。これは指導する側からすると、段階を踏んでいるという点で、児童との間でわかりやすい共通項になっていくのかなと思ったところである。あとは、長篠の戦いであるとか、4社が全部扱っている事項を比較したが、そこで大きな違いというのは見られなかった。最終的に興味・関心を持ってもらうとして見たときには、どの題材を扱っているかも非常に大切だとは思ったのであるが、教科書の構成がどうなっているかについて見てみると、基本的に各単元ともまず問いから入っていく項目が非常に多かった。例えば戦争であれば、なぜ戦争は起こったのだろうかとか、なぜ秀吉はそう動いたのであろうかなどである。まずこの問いから入って、それから中身に入っていくというこの持って行き方、構成という観点で、ここでもし興味・関心が誘発されるのであれば、少しは刺激になるのかなと思ひ、私はH社を薦めたいと思っている。

○尾形委員

私はA社を推薦する。理由は次のとおりである。第一に、「つかむ」「調べる」「まとめる」という問題解決の学習の過程が明確に示されているからである。この過程を丁寧に積み重ねることで、学習問題を主体的に捉え、自分の考えをまとめ、「思考力」「表現力」が育つものと考え。第二に、大田区の町工場が取り上げられているからである。大田区の児童が意欲を持って地域と関わりながら町工場を社会科の教材として活用できる。地域を生かした教材を最大限に活用して学習意欲を高め、考える児童の育成が可能になると考える。第三に、基礎的・基本的な知識や技能を確実に習得できる工夫がなされている。学び方コーナーや学習上重要なキーワード、巻末の索引などがそれである。以上により、A社を推薦する。

○委員長

私の意見も各委員が挙げていた理由と重複している。A社については問題解決型の「つかむ」「調べる」「まとめる」「いかす」の過程が明記されているという意見があった。それと、大田区の工場が紹介されている点も興味深いところである。しかし、私はF社との比較において非常に迷った。F社においても町の工場について触れており、また防災公園や貝塚、空港など様々掲載されているのであるが、こういったことが子どもたちにとっては自分に非常に身近な問題であって、いつも見ている場所であったりするので関心度は確かに高いと思う。また先ほどのA社の「いかす」について、つまり問題解決型の過程についてであるが、これは改めて明記されていないような形に見えるが、調べる、それから、記録をする、発表する、そして考えて探そうなどの活動の指示がある。それに加え、最後には、やってみようということで学習の活動を促している。そして、もっと知りたい

ということで広げている。その部分と、ほかにもノートを取ることに、ノートへの書き込みの指導があり、ノートのまとめ方で理解を深めて問題解決への気づきが促されるという学習活動や、まとめの意識づけをすることが大切であるということがある。A社とF社について迷ったのであるが、結論としてはF社を推薦する。

審議の結果、A社、F社、H社を評価する意見があるが、1社に絞るとしたら、評価する意見が最も多かったのはA社である。社会はA社でよいか。

(「異議なし」との声あり)

○委員長

社会はA社とする。

続いて地図について審議する。地図の発行社は2社である。各委員の意見をお願いする。

○教育長

私はA社を推薦する。理由は、地図は見る楽しみがあり、そこから発見することが大切であると思っている。A社については、A4判で見やすいという点を評価する。具体的な箇所を指摘すると、まず表紙の裏1ページから3ページに「ながめてみよう日本のすがた」という箇所があるが、ここには何の解説もなくまず自分の目で見て様々な発見をする機会が提供されている。太平洋や日本海の深さの違い、海底の地形などもわかり、日本列島がアジア大陸の外縁部に位置することがよくわかる。このことは地形の理解にとどまらず、中国や韓国、北朝鮮などとの関係を考える際の前提となる認識として意義があると思った。これからのグローバル人材の育成にとっても大切な視点であると思う。また14ページでは、鹿児島市と那覇市との距離と、那覇市と台湾との距離を見比べている。こういった距離を見比べることによって、発見する楽しさというのを味わえると思った。また最後のほうの90、91ページでは、日本の自然災害についてそれらが日本列島のどこで発生したかを地図上に示している。地震や台風などの災害とともに暮らしていかなければならない日本人として、理解していなければならない基本的な知識であり、それを俯瞰的に把握できる優れた地図であると思った。

なおA社のマイナス面として、首都東京の拡大地図で大田区が途中で切れているということは確かに気になるころではあるが、大田区全体を把握するためにはいずれにしてもこの地図では足りないので、別途副教材を用意する必要があると思った。そちらのほうで逆に補えるというふうに考えたところである。

○藤崎委員

私は結論から言うとI社を推薦する。もちろんA社はまず判が大きく、文字がそれぞれ少しずつ大きい。巻末に載っている索引の数についても考えると、私も最初はA社のほうがよいかと思った。ではなぜI社を推薦するのかというと、地図の見方についての説明の文章の細かさ、量の多さというところで、初めて地図に触れることを考えたときに、地図はこうやって使うのだということがある程度細かく書いてあるほうがよいのかなと思ったのが一点。それから表紙の紙質については、三年間使うと破れることを前提とした場合、A社は非常に強化されているということがあった。しかし、私は最後の最後まで迷い

に迷ったのであるが、自分がその学校の小学生だったらと仮定したときに、大田区の地図を見て自分の小学校が載っていない場合にどう思うかを考えた。載っていない学校が三校ぐらいあった。そこがどうしても、私としては気になってしまった。確かに副教材で補えることは事実ではあるのだが、迷った末最終的にI社を選んだ理由はそこである。私がもう一つ気になったのは、I社の中で、これはI社の特徴とも言えるのであるが、今いろいろと島の問題が出ているが、尖閣諸島であるとか竹島について地図の中で敢えて写真を出して、ここであると示していることや、ここは今韓国との間で問題になっているといったことを、敢えて写真と文章で付け加えていることである。これは前回と比べると分かる。これについては、かえってどうなのかなということが、自分の中でもまだ消化し切れていない部分というのがある。ただ、総合的に見てI社とA社ということで比較したところでは、I社を薦めたいと思う。

○横川委員

私はI社を推薦する。教育長の意見にもあったがA社は地図として見ると大きくて、ある意味見やすく、私も見ていたいと思うような地図なのであるが、I社の優れている点というのは藤崎委員からの意見にもあったように、地図帳の使い方についての説明が非常に丁寧であること。それからもう一つ、これは私が見慣れているせいかもしれないのであるが、色の使い方が非常に目に馴染む。A社よりもI社の色の使い方のほうが、山だとか平野だとかを見るのに立体感があり、紙ではあるけれども非常につかみやすいということがある。そういった点からして、I社を推薦する。

○芳賀委員

私もI社がよいと思う。一つは、藤崎委員の発言にもあったとおり、地図の成り立ち、あるいは地図のいろいろな記号等の説明が充実しているという点が大事というか、見やすく整理してあるということは非常に大事であると思う。それからもう一つは、基本的にどちらでも地図という意味では大体同じようなものになるわけなのであるが、先ほど島の写真の有無の意見が出た。私自身は、今非常にニュースでも大きく流れているところ、尖閣諸島にしる、竹島にしる、北方領土にしる、やはり大きなニュースになっていることであるから、先ほど社会科でも述べたように、社会的事象への関心を高める意味でも、やはり写真まであって、そういうふうなことがあったほうがむしろよいと思っている。要するに、竹島にしても尖閣諸島にしても、それ自身は非常に小さい島なのであるが、小さい島なのに、なぜこんなに大きな問題になっているのかということ、逆にそういうことから考えるきっかけになるのではないかというようなこともあるので、私はこれがよいと思っている。それからI社についてよかったのは、今の発言とも関係があるのだが、11ページで「国の範囲はどこまでだろうか？」というコーナーを作っていて、領海、接続水域、排他的経済水域の説明がきちんとなされていることである。これは、実際に私自身も人に説明するほどにはきちんと理解していなかったのであるがこれを読んでよくわかり、やはりこういうところにも、ニュースを聞いたときにどうなのだろうと調べたとき、参照できる資料があるというのはよいと思ったところである。

○尾形委員

私はI社を推薦する。理由は次のとおりである。第一に、地図帳の活用を図るための約束事や使い方がとても充実している。またチャレンジコーナーをつくり、地図の活用もできると考える。第二に、I社は大田区の記載地図が10万分の1で、大田区全域が記載されている。第三に、歴史分野での学習で活用できるように、歴史の舞台となった場所を地図に表現している。第四に、地図というのは見た目というのが大事だと思う。写真や色、活字、こういうのを総合的に見ているとI社が見やすい、わかりやすいと考える。

○委員長

私は、各委員と大体意見が重複している。違ったところでは、「地震・火山の災害と防災」についてまとめられているのがI社であった。I社の最後では、ハザードマップづくりなどの学習活動へとつなげている。今地震については関心事であるから、日常の備えなどにもつながってくると思う。また先ほどの意見にもあったが、I社は地図帳の使い方の導入についても非常に充実しており、学習の活動へとつなげていくと思う。尾形委員の発言にあったように、紙面について、どの教科もそうであるが、まずは視覚から入るものである。表紙であるとかカラーコントラスト、紙面の構成といったものから入るから、見た段階で「あれ？見てみたい」とまず思うかどうかということがある。I社は判は小さいけれども非常に中身は興味深いと思う。丁寧にたくさんいろいろな情報が入っていると思うし、カラーコントラストが目優しいし、地形の高低の部分のところも見やすいと思う。よって、私はI社を推薦する。

審議の結果、評価する意見が多いのはI社であるが、A社を評価する意見もあった。I社に絞るとしたら、評価する意見が最も多かったのはI社である。地図はI社でよいか。

（「異議なし」との声あり）

○委員長

地図はI社とする。

続いて算数について審議する。算数の発行社は6社である。各委員の意見を願います。

○教育長

私はA社を推薦する。理由は、まず1年の教科書について比較検討した中で、F社に特徴的な箇所が見出せた。具体的には、絵を見てノーヒントでたし算やひき算の問題を自分で作らせるというもので、絵を観察して発見し、問題を自分で組み立てる力を培うという点で優れていると感じた。ただ全学年を通じて見ると、各社とも既習事項との接続や、児童が理解しやすい解説の工夫、確かめ問題や発展問題など、それぞれに努力しており、選択が難しいところであった。その中でA社については、例えば4年のわる数が一桁の筆算において導入としてシンプルな問題を置き、さらに丁寧な説明をすることで、高度化していくわり算への入り口の垣根をできるだけ低くする細心の注意をしていると思った。このことについてはF社も同様の扱いをしているが、A社のほうがわかりやすいと思ったところである。また6年の分数のかけ算において、小数のかけ算のふり返りが入り、導入をスムーズなものにしている。こういった事例から見て比較したところ、A社が相対的に優れ

ていると考えたところである。

○芳賀委員

私もA社がよいと思った。どの教科書も比較的構成が似ていて、社会のように社によって劇的に内容が違うということはあまりなく、問題は教え方というか記述の丁寧さ、あるいは仮に教科書だけで復習、教科書だけでお勉強などというときに、どういう役に立つのかというところが充実しているかという観点で見ようと考えた。そこで比較の対象として考えたのが、4年上の2けた÷2けたのわり算のところであった。この2けた÷2けたというのは、一度仮の商を立てて計算してみて、具合が悪いとまた数字を変えてやり直すなくてはいけないという試行錯誤が必要な分野である。それまでは一回でほぼパツパツと答が出てくるのであるが、この試行錯誤が必要というところで、結構小学生でも差がつきやすい分野ではないか、悩みどころになる分野ではないかと思った。そのプロセスをA社は仮の数を立てた上で、吹き出しで「大きすぎた」、「まだ大きい」、「引けない」などと、わかりやすく解説している。また最初は、概数を使うところで、わる数とわられる数をそれぞれ1の位を切り捨ててして考えると各社同じであった。例えば $55 \div 17$ などというのは、50と10で考えましょうと始まったりするのであるが、ところが実際はわる数が19の場合などというのは、10で考えるよりは20として考えたほうが実は効率がよく、より早く正解にたどり着きやすいということがある。この点についてA社は仮の商を立てるときには、わる数に近い何十の数を使うとよさそうだななどとして丁寧に解説している部分がある。他社では、例えばF社においては、17を10と見ると、あるいは17を20と見るとという形で比べてどっちがよいかと記述していたり、わられる数とわる数を四捨五入して商の見当をつけることもありますなどといった記述がある。残りの各社に関しては見つけられなかったのであるが、自分一人で教科書を見ていくことを考えた場合にどれがよいのかなという、A社がそういう点で迷いどころの解説が一番充実していると思った。4年上においてそのような比較をしたが、他の点でも同様の比較をし、ほぼ同じ感想を持ったので、私はA社がよいと思った。

○横川委員

私はA社を推薦する。まず、私は算数の専門家ではないのですが、いわゆる一般的に言われているつまりきやすい単元の4年のわり算において、導入を丁寧に説明していると感じた。それから子どもたちが理解しやすいような形、つまり具体的にはいろいろな図や式を直接提示しながら記述しているということで、子どもたちにとってわかりやすいのではないかと、あるいは先生方にとっても教えやすいのではないかと、A社を推薦する。

○尾形委員

私はA社を推薦する。理由は次のとおりである。第一に、基礎的、基本的な技術の習得と、それを活用した思考力、表現力を育てるための様々な工夫があるということである。第二に、思考力、表現力を育成するために、問題解決学習について問題解決の仕方や手順などが例示され、学習の流れが児童にわかりやすいように書かれているからである。第三

に、一人一人の学習の向上のために、個人差に応じた補充、発展問題が用意されているということである。第四は感想であるけれども、私は毎週のように大田区内の小・中学校の学校公開で授業を見ているが、本当に、先生方の算数の授業力は高まり、そして上手になっていて、子どもたちの考える力が向上しているなど実感している。

○藤崎委員

私も結論から言うとA社を推薦する。私が比較対象として見たのはB社である。なぜB社と比較したかという、一つには、大田区の学習効果測定の中で図形が大変弱いということがあり、その図形に関してより多くの分量を割いているという特徴があったためであるが、最終的にはA社を中心に見た。児童がつまずくであろうなど我々が思うのはやはりわり算のところであるが、そこを見ていったときに、なぜそうなるのかという、段階を経て一つ一つ進んでいっているその丁寧さと、文章だけではなく絵や図について、児童たちが見たときのわかりやすさはどうだろうと思ったとき、A社のほうがよかった。それから、中1ギャップと言われるものもある。6年の巻末の、次へのステージにつながるころであるが、B社では「数学の世界へ」、A社では「算数卒業旅行」であるが、その中身の一つ一つの説明文や理解の確認度合いを比較して見たときに、A社のほうが優れていると思われたので、私もA社を薦めたいと思う。

○委員長

私も結論から言うとA社を推薦する。指導要領の計画の中には、算数的活動を通して指導するようにとあるが、今藤崎委員の発言にも同様の部分がたくさんあった。ほかの委員の意見では、わり算、かけ算の導入部分の4年の上巻について、基礎になる筆算の仕方について述べられていた。芳賀委員の発言では、筆算の仕方をしっかりと考えることについてあったが、この4年の上巻では、課題設定をして意味理解を丁寧に扱っている。後々につまずきをしないで、後へ引きずらないようにということが大切かなと思っている。まずは、1年生で数遊びなどをたくさんすることで、算数は楽しいのだと、楽しい学習なのだという意識づけをして、それから、大好きな科目なのだということになると、次がつながってくるのかなと思う。3、4年生に入るとかけ算、わり算となる。これについても、先ほどの意見のように、つまずかないようにということに注意して、高学年でほかの単元に移る前にしっかりと基礎を作っておくことで、苦手を克服することなのだかなと思っている。具体的に述べると、A社については「おぼえているかな？」で単元ごとの振り返りがあり、考えよう、調べよう、表そう、求めようなどのページでカラーページを挿入してあるので、そこをパッと開けやすいということもあるし、また先ほどの指導要領の計画の中の算数的活動へとつなげるという意味では、実生活の中でつなげていくような題材が多くある。そこも含めて非常によいかなと思っている。いずれにしても、学んで、つなげて、生かしていかないと意味がないと思っているので、そういう点で非常によいかなと思っている。したがって、A社を推薦する。

審議の結果、A社を評価する意見で一致した。算数はA社でよいか。

(「異議なし」との声あり)

○委員長

算数はA社とする。

以上で本日の教科書採択についての審議を終了する。

次回は、明日8月8日午後2時開催の臨時会で審議する。各委員は、引き続き、調査、研究をお願いします。

それでは、指導主事及び指導課管理係職員は退席願う。

ここで5分間の休憩とする。

(休 憩)

○委員長

それでは、第8回大田区教育委員会定例会を再開する。

日程第3 部課長の報告事項について

○委員長

部課長の報告を求める。

○社会教育課長

資料) 大田区指定管理者モニタリング結果 (通常年度)

① 大田区総合体育館 ②大田区立大森スポーツセンター

平成25年度大田区指定管理者モニタリング結果の大田区総合体育館、大森スポーツセンター等について報告する。

平成25年度は、業務履行状況の確認を行う通常モニタリングを実施した。まず大田区総合体育館のモニタリング結果について報告する。指定管理者は住友不動産エスフォルタグループである。概ね良好な履行状況となっているが、運営の項目でホームページの更新が週一回と即時性がないこと、また資料裏面の安全・危機管理の項目で、防犯マニュアルが未整備であることから、それぞれ△の評価となっている。総合的な評価としては、実施事業のスポーツ教室の参加者数、施設の稼働率も前年より増加しており、概ね適正に行われていることが確認できた。また利用者アンケート調査の結果も「とても満足」、「満足」で約82%を占め、一方、「不満」や「やや不満」については約1%という結果が出ており、利用者の満足度も極めて高い状況となっている。

続いて大田区大森スポーツセンターのモニタリング結果について報告する。指定管理者は公益財団法人大田区体育協会グループである。概ね良好な履行状況となっているが、職員の研修の項目、それから安全・危機管理項目の中の防犯対策等の点で不十分な点があった。それぞれ△の評価としてある。総合的な評価としては、区民に身近な地区体育館として、良好な運動環境の提供ができているということで、良好な、適正な運用状況にあるという結果である。

○大田図書館長

資料1) 大田区指定管理者モニタリング結果 (通常年度) (大田区立大森南図書館他14館)

資料2) 図書館の休館日の変更について

資料3) 郷土博物館 平成26年度特別展「馬込文士村—あの頃、馬込は笑いに満ちていた—」の開催について

3点報告する。

1点目は、図書館の大田区指定管理者モニタリング結果について報告する。モニタリングについては、指定管理で運営している大田図書館を除く区立図書館15館で、指定管理者の自己評価と施設所管課である大田図書館が評価を行う方法で実施した。実施方法は昨年度見直しが行われ、指定期間中に1回、原則として3年目に実施される総合モニタリングと、それ以外の年に実施される通常モニタリングに整理され、今回は業務履行状況の確認評価を行う通常モニタリングを実施した。業務履行状況の確認として、管理、職員、運営、情報管理、安全・危機管理、施設管理、清掃と七つの項目について、指定管理者の自己評価と施設所管課の所見及び評価の結果を記載した。評価については、○「きちんと履行されている」、△「もう少し努力が必要」、×「履行されていない」の3段階で評価することとなっている。結果については、施設所管課の評価で、多摩川図書館が、職員の項目におけるスタッフの配置で、年度計画書の配置人数を満たしていない時間帯があったので、△「もう少し努力が必要」という結果になっている。多摩川図書館の職員配置については、職員の突発的な休暇が重なったとのことであったので、受託者に職員の配置のバックアップについて万全な体制をとるように指示し、調査以降はそのようなことがないことを確認している。それ以外の14館の評価については、各館とも全て○「きちんと履行している」となっており、協定書に定めた水準を充足し、適切に運営されていると評価した。

2点目は、図書館休館日の変更について報告する。蒲田駅前図書館については消費者生活センター等との複合施設となっているので、その全体の休館日に合わせて消防設備の点検、館内一斉の殺虫消毒を行うため、休館日を変更するものである。

3点目は、郷土博物館平成26年度特別展「馬込文士村—あの頃、馬込は笑いに満ちていた—」の開催について報告する。開催期間は平成26年9月6日（土）から10月19日（日）までである。内容は、「馬込文士村コレクション」の中から主要文士の自筆原稿、著作物、書簡、絵画、遺品等などを展示し、馬込文士村での活動と生活を回顧するものである。また文士村の一員であり、今年度テレビドラマでも取り上げられている村岡花子についても紹介していきたいと思っている。開催に伴う臨時休館として、開催の準備として9月1日（月）から9月5日（金）まで、展示物の撤去として10月20日（月）から10月24日（金）までを休館とする。

○委員長

部課長の報告に対する意見、質問はあるか。

（「なし」との声あり）

○委員長

部課長の報告について、承認してよろしいか。

（「異議なし」との声あり）

○委員長

承認する。

これをもって、平成26年第8回教育委員会定例会を終了する。

(午後 3 時24分閉会)